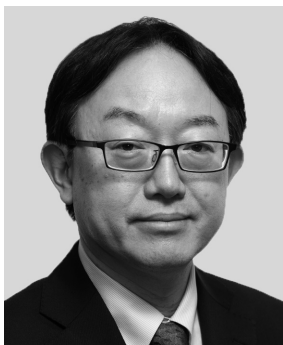


# 金利のある世界への復帰と課題 日銀金融緩和修正の行方

東短りサーチ社長 加藤 出

- \* 植田日銀と金融政策における舵取りの変化
- \* 急激な円安の背景について
- \* 容易ではない賃金と物価の好循環
- \* ソフトランディングに向かうアメリカ経済
- \* 急激な円安で上昇した日本株
- \* ここから日本の金利はどう動くか
- \* 膨大な日銀の国債保有額の行方
- \* 歯止めなく膨張する日本の財政赤字
- \* 利上げを難しくする日本のセーフティネット
- \* キヤッシュレス進むスウェーデン事情



山縣 それでは開会いたします。

相変わらずひどい暑さですけれども、皆さん暑い中お越しいただきましてありがとうございます。今日は、東短りサーチのチーフエコノミスト、社長もなさっている加藤出さんにお越しいただきました。

加藤先生は、横浜国大の経済学部を卒業されました、東京短資に入社されまして、ブローカーもなさっていましたけれどもエコノミストとして活躍されて、今では日銀ウォッチャーとしてもたいへん著名な方でいらっしやいます。

今回は、まさにこのテーマ、「金利のある世界」への復帰と課題」ということで、最近政府からも促されて植田日銀がサプライズ利上げをしました。その後株が急落し、ドル円も非常に

不安定な状況が続いています。日経平均のほうも上下して方向感のない、非常に荒々しい動きになっておりますので、このテーマでお話ししたくのは絶好のタイミングだと思っております。

先生、それではご登壇をよろしく願います。（拍手）

## 植田日銀と金融政策における舵取りの変化

加藤 ご紹介いただきました東短りサーチの加藤です。本日はどうぞよろしく願います。

今まさにお話があったように、8月5日の株価の急落もあって、その前後の日銀のスタンス